

科学と社会委員会 科学と社会企画分科会（第24期・第1回）議事要旨

1 日 時 平成30年9月14日（金） 13:00～15:00

2 場 所 日本学術会議5階 5-D会議室

3 出席者 三成 美穂（副会長・第一部会員）、渡辺 美代子（副会長・第三部会員）、
藤原 聖子（第一部会員）、川口 慎介（連携会員）、高瀬 堅吉（連携会員）、
高山 弘太郎（連携会員）

（欠席） 遠藤 薫（第一部会員）、沖 大幹（連携会員）、西嶋 一欽（連携会員）
（事務局） 犬塚参事官、酒井参事官補佐、鳥生審議専門職、奥野審議調査専門職

4 議事要旨

（1）役員を選出について

- 委員長に渡辺委員、副委員長に高山委員、幹事に藤原委員及び川口委員がそれぞれ選出された。

（2）日本の展望に続く提言について

- 渡辺委員長より、資料2-1「日本の展望に続く日本学術会議の提言に関する全体の進め方」の説明があり、引き続き若手アカデミーの会員でもある川口委員より、若手アカデミーからの提案として、資料2-2「日本の宿題—学術からの提案2020—」について」の説明があった。これらに基づき意見交換があり、要旨は以下のとおり。
 - ・若手アカデミーからの提案は、学術のための学術ではなく、将来のための提言というものであり、社会がそれに沿って動くように提言しようということである。
 - ・若手アカデミーでも、高校生や中学生にも分かりやすいメッセージを出せるようなシンポジウム等をすべきという話がよく出ている。学術の次の担い手を考えていく時にとっても重要なので、今回のものも彼らに向けて何か言えるものがあるといい。
 - ・提言を学術会議が出すということ自体、出し手が高いところから社会に向かって言っているという背景が出来てしまっている。この文脈が社会にとって圧迫感がある、耳を塞ぐという要因になっているという話もある。
 - ・圧迫とか認知というよりも、どちらかという、認知されていない、誰も来てくれないという問題もある。第23期は、提言を動画にしてユーチューブなどで出したらどうかという案があった。こちらから積極的に出ていかないといけない。
 - ・動画はポイントが高い。認知されていない、あるいは認知している人でも自分とは関係ない、偉い人たちの集団に関わりたくない、というイメージがある。その辺をそのままにしておくと言っても誰も見向きもしない。
 - ・社会に対して学術がどう貢献するかということが一つあり、もう一つは、学術そのものについての問題点を提示するという2本柱を提言としてまとめるのは意味があると思う。出すとしたらその二つ、その上に総論的なものをまとめて2+1ならば2本立てというのがいいのではないか。特に社会への貢献については、簡略化した中高校生向けの分かりやすいバージョンをアニメ・漫画で見せるというのも有りと思う。一方、学術への提言については、対象が違うのでアニメ・漫画などは必要ない。こういう構成が必要。
 - ・学術のための学術ではなく、学術会議というのは、そのことが社会全体にとって意味があるということの説明する必要がある。
 - ・山極会長もいつも言っているが、一方的に学者がこうあるべきだということを社会に言っても社会が受け付けない、だから対話をしながら、学者でない人が何を望んでいるか、

政府とも対話をしながら、こちらも主張することは主張するというをやっていかないといけない。一方的なやり方は現在は無理、というのが今期と先期までの違うところ。

- ・ 世代別もしくは暮らし方別に、学術はこう貢献していますというのもある。10年後には、今書いたことはこういうふうにご貢献すると思います、ということメモしながら書いていくと、自然と受け入れられやすい話にはなるのか。
- ・ 基本方針としては、資料2-1の2①の記載のとおり、「学術のための学術」と「社会のための学術」の両方の観点から審議し、内容について幹事会で審議してもらう。
- ・ 体制については、「学術のための学術」は科学者委員会で、「社会のための学術」は科学と社会委員会で審議する。
- ・ 上記の審議のため、科学者委員会に新たに分科会を作り、科学と社会委員会は当面この科学と社会企画分科会で審議する。
- ・ 部・分野別委員会に対しては、上記の委員会での審議内容について意見照会するような形にする（前回のように分野ごとの提言は出さない）。
- ・ 社会的課題として、①いのち、②食、③くらし（住）という覚えやすい分け方も必要。

- 今回議論した基本的体制等について、渡辺委員長から10月3日（水）の幹事会に提案することが了承された。

（3）アジア学術会議について

- 渡辺委員長より、12月5日（水）～7日（金）の3日間開催について報告がされた。

（4）その他

- 次回開催については、日程調整をした後、連絡することとされた。

以 上